事例No.	1311
公表年度	R1
団体の属性	一般市
団体名	秋田県横手市

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・観光 ・移住定住

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

台湾における横手応援人口ネットワークの構築事業

出典

関係人口創出・拡大事業（裾野拡大型・裾野拡大（外国人）型）成果報告会

1.地域概要・地域課題・事業に取り組む背景

●地域の概要

地域名：秋田県横手市
人　　口：92,197人（2015.10.1国勢調査）

- 横手市は、北東北・秋田県の県南地域に位置する県下第２の都市である。2005年に旧横手市平鹿郡８市町村の郡市一体合併により誕生した。
- 東の奥羽山脈、西の出羽丘陵に囲まれた横手盆地の中央で、内陸性盆地型気候により気温の日較差が大きく、冬場には例年１メートルを超える積雪がある。
- 農業が基幹産業の一つであり、自動車関連を主とした輸送用機械器具製造業も盛んである。
- 冬の伝統行事「かまくら」に代表されるように、地域固有の伝統文化や歴史を持つ。2013年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された増田のまちなみや、2019年にリニューアルオープンした「増田まんが美術館」などは、海外からの訪日客にも人気が高く、年々来客数を伸ばしている。





●解決したい地域課題

- 少子高齢化の進行（高齢化率 2005年合併当初28%台→2018年 36%台）により、担い手不足の顕在化や地域経済の規模縮小が見られる。
- 地域経済活性化のために観光やスポーツ等による交流増加とにぎわい創出からの外貨獲得が必要だが、観光振興においてはインバウンド誘客が課題。
- 市へのインバウンド客の８割以上を占める台湾をターゲットとしたさらなる関係強化が求められている。

●本事業に取り組むに至った背景

- 2015年度から、台湾・大同大學と市内企業デジタル・ウント・メア社と横手市の3者で「国際的産学官連携プロジェクト」として様々な取り組みを行ってきた。
- 国内においても同じく2015年度から「応援人口拡大事業」を実施しており、応援人口（＝関係人口）による地域課題への応援も実践してきていることから、それらの手応えをもとに、国際的産学官連携プロジェクトによる海外との交流も、関係人口として捉え直すことで、中長期的な交流へと深化させ、市の発展の力にすることができるのではないかと考えた。

大同大學 TATUNG UNIVERSITY × Digital und MeeR 株式会社デジタル・ウント・メア × よこてし 横手市

2. 事業概要

●事業概要

＜ターゲット＞
- 「国際的産学官連携プロジェクト」により交流を行ってきた台湾・大同大學の学生（及び卒業生）やその関係者

＜概要＞
- 台湾との既存の交流をネットワーク化。
- SNSと連携したWebサイトを立ち上げ、ネットワークにおける情報の受発信力強化のため、プロのブロガーなどを講師に迎えた特別授業を実施。
- 市内事業者が参加して台湾現地でワークショップを行い、付加価値の高い着地型観光の在り方を考える。

＜実施事項＞
- 「横手応援人口@台湾」ネットワークの構築
- SNSと連動した情報発信用Webサイトの構築
- [国内応援人口向け]海外にアピールすべき横手の魅力等についてのアンケート実施
- 情報発信力強化のための特別授業【台湾にて】
- 高付加価値観光を考えるワークショップ【台湾にて】
- 参加事業者事後研修（フォローアップ）

●地域の理想の姿

- 過去の事業をベースに台湾との相互交流が活性化され、台湾側からの視点で観光資源磨きやコンテンツの強化が促され、インバウンド誘客の促進と外国人受入態勢の強化につながる。
- 高付加価値な着地型観光の推進により、外国人観光客の増加と、市内事業者のビジネス発展、地域経済の好循環の実現。

●理想を実現するための本年度事業の位置づけ

- 既存交流をネットワーク化することにより、年数が経っても関係性を維持できるような基盤づくりを行い、情報の受発信を活発化させる。
- 外国人受入態勢について、市内事業者が自らのビジネスと関連付けて実践的に考える機会とし、地域経済活性化の足掛かりとする。

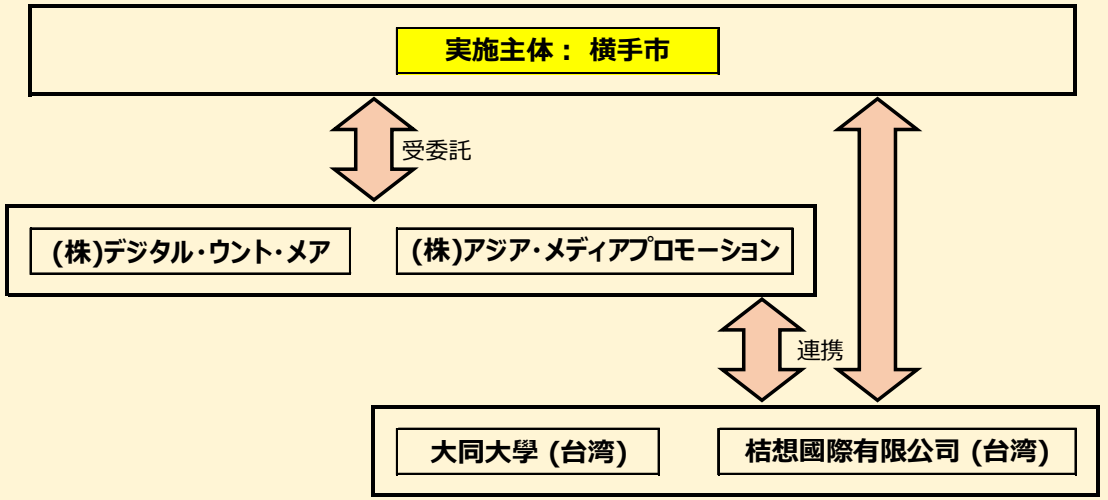
●本年度の目標

「横手応援人口@台湾」ネットワークのメンバー数	100名以上
台湾向け情報発信用Webサイトの月間PV数	1,000以上
Facebook上のPRページのファン数	5,000名以上
国内応援人口向けアンケートの回収数	100名以上
インバウンド受け皿人材(市内観光関連業者)の育成	3名以上

3.事業実施体制・スケジュール

●事業実施体制（受け入れ体制を含む）

- 横手市役所： 統括、実務支援等
- (株)デジタル・ウント・メア： ネットワーク構築、Webサイト構築、台湾側との連絡調整等
- (株)アジア・メディアプロモーション： ワークショップ等の開催調整、横手市内事業者フォローアップ等
- 大同大學： 特別授業の手配、ネットワーク参加学生等との橋渡し
- 桔想國際有限公司： 特別授業講師選定、現地コーディネート



●スケジュール

実施事項	5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1 「横手応援人口@台湾」ネットワーク構築										既存事業で交流のあった台湾の大学生等のリストアップ・SNS等ネットワーク運用手段、手法の検討・ネットワーク化																							
2 情報発信・交流のためのSNSと連携したWebサイト立ち上げ												Webサイトの構築												サイト誘導広告実施							
3 国内応援人口向けアンケート「海外にアピールすべき横手の魅力」										fun通信9月号原稿作成・アンケート画面作成					アンケート集計・分析																	
4 情報発信力強化の特別授業及び高付加価値観光を考えるワークショップ										市内参加事業者募集			★		講師選定		★		★		★				報告書まとめ							
5												8/29事前打合せ実施						10/31事前打合せ実施			ワークショップ・特別授業開催 11/16・17			事後研修（フォローアップ）実施 12/10									

4.事業の「ターゲット」

事業のターゲット

- 本事業における「関係人口」は、横手市が2015年度から行っている「国際的産学官連携プロジェクト」により交流を行ってきた台湾・大同大學の学生（及び卒業生）やその関係者が中心となる。
- 既存の交流をベースにした事業でありターゲットは明確であるが、東北や秋田・横手を訪れる訪日外国人の内訳として台湾からの観光客が圧倒的に多いという現状があり、インバウンド誘客の拡大を見据えた事業のターゲット層としては最適と言える。

参加者募集のターゲットの設定経緯

- 台湾現地での「情報発信力強化のための特別授業」「高付加価値観光を考えるワークショップ」への参加者募集等については、既存の事業で既に大同大學との関係性を構築できていたことから、実施内容を共有しながら学生への呼びかけ等を大學側にお任せした。
- 台湾での事業に参加する横手市内事業者の募集については、観光に関連する業種ということに絞った上で商工団体に推薦を依頼し、今後の外国人観光客受入等に意欲のある事業者を選定した。

ターゲットへの広報・アプローチ

【実施事項】
- 直接的なメイン参加者の募集という意味では、左記のとおり大同大學側に一任している。
- 学生以外では、現地にある横手関連企業等には個別にご案内してご参加いただいている。
- 「情報発信力強化のための特別授業」については、人気ブロガー/YouTuberによる講義があるということで現地メディア向けのリリースも行った。

【成果・効果】
- 「情報発信力強化のための特別授業」「高付加価値観光を考えるワークショップ」ともに学生は40名以上の参加を得た。
- 既存事業により大同大學と連携できる体制が整っていたため、大学において応用外国語を学んでいる学生やメディア学科で日本文化に興味を持つ学生など、趣旨に沿った参加者を集めることが出来た。
- リリースにより実際に現地メディアの取材があり、イベント実施後にネットニュースとしても配信されたことから、当市の取り組みがさらに広く知れ渡る効果もあった。

5.関係人口の活動内容

●参加者（関係人口）が取り組んだ活動の内容

＜情報発信力強化のための特別授業＞
【日程】 2019年11月16日（土）
【参加者】62名

- SNSや動画投稿など現代的な情報発信のノウハウ等を学ぶ特別授業を開催。著名なYouTuber等を講師に迎え、フィールドワークやFacebook投稿の試作など実践的な内容を取り入れながら学んだ。
- 横手から持参した観光ポスターやお土産品、風景写真、各種パンフ等を自由に投稿試作の素材（撮影用）として使ってもらった。
- 各自の投稿を審査のうえ、3賞を決定して表彰。講義の内容が反映され、見せ方の意識など情報発信のコツをつかんだ様子が見受けられた。



＜高付加価値観光を考えるワークショップ＞
【日程】 2019年11月17日（日）
【参加者】55名

- 横手市として高付加価値観光とその受入態勢を考えるため、学生たちに現状の横手市の観光について学んでもらった上で、横手PR作戦のアイデアを練ってもらった。
- 国内応援人口のアンケート結果や観光統計データ等を題材にしつつ、「宿泊」「お土産」「食と農」「観光」という４つのテーマ毎にテーブルディスカッションを実施。
- 学生2人1組の発表を横手市側の参加者が審査し、優秀賞1組を決定、「横手PR大使@台湾」として任命し、今後1年間、SNSでの横手情報発信を担ってもらう。
- テーブルディスカッションやプレゼン審査を通して、台湾人に横手の観光資源がどのように映ったか、台湾人にとっての魅力付けとしてどんなことが考えられるかなどの視点が得られ、民間事業者にとって観光資源磨きやホスピタリティ向上につながる示唆が得られたものと思われる。







6.活動の成果

●本年度の目標達成状況

- FBページファン数以外は目標を達成できている。

項目	目標	実績
「横手応援人口@台湾」ネットワークのメンバー数	100名以上	105名
台湾向け情報発信用Webサイトの月間PV数	1,000以上	1,279
Facebook上のPRページのファン数	5,000名以上	1,954名
国内応援人口向けアンケートの回収数	100名以上	126名
インバウンド受け皿人材(市内観光関連業者)の育成	3名以上	5名

●関係人口の地域との関わり方

- 既存事業では1ヶ月間にわたる市内企業でのインターンシップ研修など、深い関わりを持つ内容があり、それが個人対個人の交流として深化していっているケースが散見される（個々にお互いの家を訪問したり、それぞれの地域の特産品等を贈り合うなど）。
- そういった交流がそれぞれの点からもっと大きな面へと発展していくために今回のネットワーク化等があり、また新たにビジネスの視点等も含めて市内事業者に参画してもらったことにより、今後単なる観光交流に留まらない関係人口としての関係性を築いていけるのではないかという手応えを感じている。

●その他の成果

- 事業への取り組みがメディア経由などなんらかのルートで多方面に浸透していっているようで、市内の高等学校から大同大學と連携して何か研究授業等をやりたいといった相談を受けたり、国内応援人口の方から台湾との交流に関して出来ることがあれば協力したいといった申し出を受けたり、商工会議所等の市内団体が台湾を視察旅行先として検討するなどの動きが出てきている。
- こうした動きは横手市と台湾との交流を一層活発化させる意味で非常に有意義なものであり、歓迎すべきものと捉えている。

7.課題への対応

●事業で直面した課題とその対応策･解決方法

＜地域における外国人受入意識の醸成について＞

- 既存の「国際的産学官連携プロジェクト」では、インターンシップ受入企業など横手市民側の関わりが一部の方々に留まっていたため、地域住民全体としては言葉の面も含め外国人に対して不慣れな面がまだある。
- 今回のワークショップでの意見交換等を通じてそういった現状が浮き彫りになったので、今後地域住民に対する外国人受入意識醸成のための取り組みが必要であるとの共通認識が得られた。



＜Web版･台湾版よこてfun通信について＞

- 国内応援人口向け情報紙「よこてfun通信」のWeb版･台湾版発行を検討したいと考えていたが、事業実施段階において、今年度中に具体的な検討までは至らないという判断になり、先送りしている。
- 今後ネットワークでの交流が活性化され、広がりが生まれてきたタイミングで、改めて検討できればと考えている。

●今後の課題と対応方針

- 台湾人に横手のことを知ってもらう取り組みと同時に、横手市民に台湾のことを知ってもらう取り組みがもっと必要である。
- 地域の様々な団体を巻き込みながら啓発やイベントを実施し、台湾や外国のことをもっと理解してもらって、外国人の受入を一般的なものと捉えられるようにしていきたい。
- インバウンド誘客のためにはアウトバウンドの促進を同時に進行させることが必要であり、パスポート取得率の向上などにも取り組む必要がある。
- 台湾･秋田間の定期チャーター便が全便運航停止という事態になっており、今後交流を活性化させていこうとする上で逆風になっているが、秋田県では今後別の航空会社に対して就航を働きかけていくこととしており、当市としても県と連携して、定期便の復活に向けた働きかけ等を行っていくべきと考える。





8.将来への展望

●来年度以降の関係人口とのかかわり方

- 本年度事業で「横手応援人口@台湾」ネットワークを構築し、ネットワーク内の情報発信力を高める措置もとったことから、この活用が第一である。
- 「横手PR大使@台湾」には、定期的な投稿により台湾内に横手の情報を広く浸透させる役割を期待している。そのためには本年度と同様に連携体制を維持していきたい。
- これまでのインターンシップ学生は、引き続き折に触れ横手を訪問してもらえるように関係性を維持・発展させていきたい対象であり、SNSも活用しながら様々な機会創出を図りたい。



●「関係人口」施策の展望

- 市にとって、海外にも応援団がいるということは観光振興をはじめとした様々な面で心強い。大同大學との関係性は既存の事業も含めて質・量とも高いレベルで交流が出来ていることから、引き続きお互いにとってのメリットを考慮しながら継続させていきたい。その中で可能であれば、他の大学も含めて連携交流の幅を広げていければと考えている。
- ビジネスとしてのマッチングやマネタイズにつなげていけないかという模索や、市内の高校生及びその親世代を巻き込んだ交流について話題に出てきているため、活動の幅が広がりネットワークの拡大と充実につながるようにしたい。
- 横手市側においては、満足度の高い着地型観光の実現を目指し、本年度の参加事業者が先頭に立って活動してくれることを望む。まだまだ地域住民の中には外国人に不慣れで十分な応対ができないでいる方も多く、外国人に対する理解を深めることでそういった面の解消に努めたい。そのためには地域のいろいろな団体を巻き込んで、横手の中にもっと台湾・外国を浸透させていくような活動を同時に展開していきたい。